



俵 万智選

あ、雨ときみが差し出す透明なたまごを乗せた
ような手のひら

【評】初句のひらがなと読点が、ぽつんと降
り出した雨粒を思わせ、臨場感を伝えてくれ
る。下の句の比喻も素晴らしい。きみの手の
ひらの窪みに玉子が見えるのは、愛おしさの
証しだろう。

空高く揺れるブランコ揺らす子を得て生き生き
と揺れるブランコ

【評】二句切れで読んだ。揺らしてくれる子
がいてこそそのブランコ。リフレインが、揺れ
る様子と重なって効果的だ。

チリ産やメキシコ産が目にとまるワールドカッ
プ中のスーパ―

【評】サッカーのW杯では、様々な国名を耳に
した。スーパ―の買い物という日常にまで
入り込んだ独特の高揚感が、伝わってくる。

前をゆく人のまたいだカラカラの蚯蚓をまたぐ
(以後くりかえし)

それぞれが小山を成せる紫陽花の道端に咲くラ
ンドセルあり

店長と呼んでいたから店長の名を思いたすこと
ができない

半割のキャベツをめくる片割れは町の誰かの食
卓にある

さんかんび、とひらがなで言う三歳がほのかに
纏いはじめた社会

慣例の卒業証書の以下同文その後も続く以下同
文の日々

感情を冷ます雨だとわかるからテートの日には
降ってもいいよ

岡崎市 三上 正
横濱市 紺屋 小町
豊中市 葉村 直
柏市 塩田 淳文
堺市 一條 智美
大和郡山市 本田 岳
広島市 木村 佳慧
守口市 小杉なんぎん
京都市 袴田 朱夏



黒瀬 珂瀾選

君の死か我の不眠か深夜二時は戦いのとき蚊よ
覚悟せよ

【評】僕も毎夜戦っているのでよく分かります。
「ぷん」という羽音が耳をかすめる深
夜、眠りを破る蚊への怒りが燃え上がる。し
かし、蚊も必死に生きていますよ。

隣家から悲鳴の聞こゆブラジルに堅守の鍵をこ
じ開けられて

【評】先のサッカーワールドカップ、日本は
ブラジルに惜敗。その晩、近所の人も中継を
見ていたでしょう。敵ゴールの瞬間、皆が
悲鳴を上げる。そんな劇的な瞬間の活写。

面会の帰りの道がづらいねと泰山木が花の香降
らす

【評】面会のたびに相手の衰えを目の当たり
にする。そんなつらい帰り道に、泰山木の花
の香りが届く。一瞬のなぐさめのように。

背の低い車いすでもしっかりと拾ってみせた母
の遺骨を

米、卵買えざるわれはメルカリで買ったYoh
jiをメルカリで売る

入浴の介助で汗をかく吾に利用者五名控えをり
けり

師と同じ動き形のつもりだが深き森なり太極拳
は

理科室の実験のごと混ぜ合わす彼女のためのス
パイスカレー

若き日は努力もせずに眠れしを貪るように眠る
夢見る

永遠の絆を思い七夕のすこしめった夜風にあ
たる

豊前市 中村 澄枝
生駒市 高橋 裕樹
生駒市 高橋 裕樹
生駒市 高橋 裕樹

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話
番号を明記。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希
望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載

7月27日俳壇に掲載された「紫
陽花や成層圏より上は闇」は、
類似作があるため入選を取り消します。